

世田谷版気候市民会議の活動報告

近藤 優一

KONDO, Yuichi

(世田谷区環境政策部環境政策課環境政策 担当係長)

【要旨】

住宅都市である世田谷区は CO₂排出量の約 5 割を家庭部門が占めており、2050 年脱炭素社会の実現に向けて、各家庭・個人が気候変動を自分事として捉え、自ら主体性をもって脱炭素行動を実践していくことが非常に重要となる。

そこで、区民の行動変容の促進と実効性の高い施策構築を図るため、多様な区民が主体的に議論し、提言をとりまとめる場として世田谷版気候市民会議を開催し、無作為抽出した中から選出された 16 歳以上の世田谷区民 55 名が参加した。

会議では、予め設定した 4 つのミッションである「太陽光発電設備の設置」、「再生可能エネルギー電力への切替え」、「住宅の省エネ改修」、「脱炭素行動変容」について、全 3 回にわたりグループワークを行い、当事者である区民の視点から具体的な意見を数多くいただくことができた。

その結果については、「世田谷版気候市民会議からの提言」として区へ提出され、世田谷区では、この提言を今後の施策に活用していく。

はじめに

2015 年にパリ協定が採択され、世界が脱炭素社会に向けて動き始める中、2019 年頃から英国やフランスでは、脱炭素社会の実現に向けた議論を進めるため、無作為抽出の市民の参加による「Climate Assembly（気候市民会議）」が開催されました。

これまでの市民参加の仕組みでは、気候変動対策に対して、ある程度知識やモチベーションがなければ参加が難しいなどの課題がありましたが、知識や関心のない方も含めた多くの市民の参加によって議論を行う気候市民会議は、新たな市民参加の手法として注目を集めており、日本においても、2020 年の「気候市民会議さっぽろ 2020」を皮切りに、様々な自治体が気候市民会議を実施しています。

世田谷区では、令和 2 年 10 月に「世田谷区気候非常事態宣言」を行い、2050 年までに二酸化炭素排出量実質ゼロをめざすことを表明していますが、その実現に向けて、令和 6 年度に、区民の家庭で使用する電気などが元になって排出される二酸化炭素を減らし、2050 年までに限りなくゼロに近づける（＝暮らしを脱炭素化する）ための議論を行う「世田谷版気候市民会議」を全 3 回にわたり開催しました。¹

特集

1. 対象者の抽出

無作為抽出した区民（4,000人）に参加案内を送付し、参加希望のあった248人から、年齢、居住地域等を考慮の上、参加者を決定しました。

2. 開催概要

2.1 第1回²

テーマ：気候危機についての理解を深めよう！

概要：世田谷版気候市民会議の概要と狙いの説明を受けたうえで、専門家から世界を取り巻く気候変動問題の話の聞き、気候危機についての理解を深めました。また、主催者からゼロカーボンの実現に向けた方向性、専門家から家庭部門の脱炭素の話の聞いたうえで、グループワークを行い、身近な暮らしの脱炭素化に関する問題・障壁を整理しました。

日時：2025年1月26日（日） 13:00～16:30

場所：世田谷区立教育総合センター 研修室（たいよう）

参加者：35名



写真1 区長からのメッセージの様子

2.2 第2回³

テーマ：暮らしの脱炭素化について考えよう！

概要：第1回会議の成果を振り返り、専門家から家庭部門の脱炭素の話聞いたうえで、グループワークを行い、脱炭素化が進まない原因・障壁に対する取り組みを検討しました。

日時：2025年2月16日（日） 13:00～16:30

場所：世田谷区立教育総合センター 研修室（たいよう）

参加者：34名



写真2・3 グループワークの様子

特集

2.3 第3回⁴

テーマ：区への政策提言をとりまとめよう！

概要：これまでの成果を振り返り、専門家から脱炭素社会に向けたトランジションの話の聞いたうえで、グループワークを行い、身近な暮らしの脱炭素化に向けたロードマップを検討しました。また、最後には各グループから検討した結果を発表しました。

日時：2025年3月2日（日） 13:00～16:30

場所：世田谷区立教育総合センター 研修室（たいよう）

参加者：32名



写真4 グループ発表の様子

2.4 政策提言のまとめと提出

全3回の会議を通じて議論した、4つのミッションを遂行するために区が行うべき取り組みを「世田谷版気候市民会議からの提言～身近な暮らしの脱炭素化に向けた政策～」として政策提言にまとめ、令和7年4月に世田谷区へ提出しました。

3. 政策提言

3.1 身近な暮らしの脱炭素化に向けた取り組み

世田谷版気候市民会議では、我々の家庭で使用する電気などがもとになって排出される二酸化炭素を減らし、2050年までに限りなくゼロに近づける（＝暮らしを脱炭素化する）ため、下記の4つのミッションに沿って話し合い、政策提言としてまとめました。⁵

ミッション① 太陽光発電設備の設置の促進及び 2050 年の目標の実現

【太陽光発電のメリットや意義を理解してもらう】

区民が「太陽光発電のメリットや意義を理解していないこと」という課題が原因だということを話し合い、その原因に対する取り組みを実施していくことが重要な政策だということを提言します。

【太陽光発電の環境や社会に対する良い面・悪い面をバランスよく理解してもらう】

区民に対して、「太陽光発電の環境や社会に対する良い面・悪い面が理解されていないこと」も原因だということを話し合い、その原因に対する取り組みを実施していくことが重要な政策だということを提言します。

【メリットや意義を知っている人に設置に向けて動き出してもらう】

「既にメリットや意義を理解していても、具体的な行動に移せていないこと」が原因だということを話し合い、具体的な行動に移せていない人に対する取り組みを実施していくことも重要な政策だということを提言します。

【全員が自分に合う条件の製品やサービスを見つけられるようにする】

実際に行動に移そうとしたときに、自分に合う条件の製品やサービスが見つげづらい状況にあること」も原因だということを話し合い、その原因に対する取り組みを実施していくことが重要な政策だということを提言します。

ミッション② 再生可能エネルギー電力への切替えの促進・実現

【再エネ電力の内容や意義を理解してもらう】

区民が「再エネ電力のメリットや意義を理解していないこと」が原因だということを話し合い、その原因に対する取り組みを実施していくことが重要な政策だということを提言します。

【再エネ電力の環境や社会に対する良い面・悪い面をバランスよく理解してもらう】

区民に対して、「再エネ電力の環境や社会に対する良い面・悪い面が理解されていないこと」も原因だということを話し合い、その原因に対する取り組みを実施していくことが重要な政策だということを提言します。

【内容や意義を知っている人に切替えに向けて動き出してもらう】

「既にメリットや意義を理解していても、具体的な行動に移せていないこと」が原因だということを話し合い、具体的な行動に移せていない人に対する取り組みを実施していくことも重要な政策だということを提言します。

【全員が自分に合う条件の電力プランを見つけられるようにする】

「実際に行動に移そうとしたときに、自分に合う条件の電力プランが見つげらい状況にあること」も原因だということを話し合い、その原因に対する取り組みを実施していくことが重要な政策だということを提言します。

ミッション③ 住宅の省エネ改回収の促進・実現

【省エネ改修のメリットや意義を理解してもらう】

第1回会議において、区民が「省エネ改修のメリットや意義を理解していないこと」が原因だということを話し合い、その原因に対する取り組みを実施していくことが重要な政策だということを提言します。

【メリットや意義を知っている人に改修に向けて動き出してもらう】

「既にメリットや意義を理解していても、具体的な行動に移せていないこと」が原因だということを話し合い、具体的な行動に移せていない人に対する取り組みを実施していくことも重要な政策だということを提言します。

【全員が自分に合う条件の工事内容やサービスを見つけられるようにする】

「実際に行動に移そうとしたときに、自分に合う条件の工事内容やサービスが見つげづらい状況にあること」も原因だということを話し合い、その原因に対する取り組みを実施していくことが重要な政策だということを提言します。

ミッション④ 脱炭素行動変容の促進・実現

【気候変動問題に懐疑的、楽観的な人に正しい知識を持ってもらう】

第1回会議において、「気候変動問題に対する正しい知識が無く、気候変動問題に懐疑的・楽観的な人が多いこと」が原因だということを話し合い、その原因に対する取り組みを実施していくことが重要な政策だということを提言します。

【気脱炭素行動の具体的な内容や効果を理解し、行動に移してもらう】

区民が「脱炭素に繋がる具体的な内容や効果を理解していないため、どういった行動をしていいのかわかっていないこと」も原因だということを話し合い、その原因に対する取り組みを実施していくことが重要な政策だということを提言します。

3.2 身近な暮らしの脱炭素化に向けたロードマップの整理

第3回会議では、「トランジション・マネジメント⁶」の考え方を踏まえ、身近な暮らしの脱炭素化に向けた4つのミッションの2050年目標を実現するためのロードマップを整理しました。⁷

ロードマップの整理にあたっては、まず、脱炭素化を実現した世田谷区ではあたり前になっていること、ルール、インフラストラクチャなど（＝創りたいシステム）を確認したうえで、逆に化石燃料に依存した現在のあたり前（＝脱炭素社会へ向けた障壁（＝壊したいシステム））について意見を出し合いました。

そのうえで、この2つのギャップを埋めるために必要となる、実験・実証的な取り組み、それを広げる・波及させるための取り組み（＝広めたい実践）を出し合い、政策提言としてまとめられました。

4. 参加者の感想（抜粋）

4.1 第1回

・地球温暖化のしくみやシミュレーションによる 75 年後の気温の変化がよくわかりました。今の赤ちゃんやこれから生まれてくる人々が深刻な環境で生きて行く事を強いられることについて、心苦しく感じます。まずは地域の組織に参加することから、取り組むことができると感じたので、自分のできることから始めて、周囲の人に危機感を伝えていきたいと思います。

・大変勉強になりました。自身がインフルエンサーとなり、再エネを広め、カーボンニュートラルに貢献したいと考えるようになりました。また、産学官の連携が大切だと考え、自身が勤務する業界を通して何か貢献できないか考えたいです。

・気候に対応する必要性をとて強く感じました。そこで太陽光など身近で出来ることを知りました。しかし、対策は大きな問題でひとりひとりの前向きな行動と地域の働き掛けなどに多くの仕組みが必要と感じ、良い前進に繋がって欲しいと思います。

・打つ手はあまりないのかと思っていたが、ここまで CO₂排出は減らすことができている、世田谷区は各家庭の太陽光発電の導入が鍵で、それが実現すれば、我慢ばかり強いられる生活ではないこと知り、明るい気持ちになった。こうした良い情報も発信していけば、区民のモチベーションもあがるのではないかな。



写真 5・6 グループワークの様子

4.2 第2回

・脱炭素化について多くの方に知って欲しいと強く感じています。脱炭素化の必要性が区民に届くよう区の働き掛けに期待しています。

・市民会議に参加し、意識が高まったのは間違いないと思います。3 回でゴールを皆で目指す方法はじっくりと考えることができ良いと思いました。また、脱線しがちなディスカッションの場面ではファシリテーターの方が適切に軌道修正して、現在やるべき事にもどることも出来、最終な達成感や、意識が高まる事につながるのではないかなと思い、全体的

特集

に前向きに参加させて頂きました。

・気候危機について知識が入った上でグループ議論の時間が今回は多かったので有意義だった。意外と今の時代にリアルコミュニケーション(直接対話)の場は貴重であり、必要なのかなと思った。ぜひこのような場作りを継続して行ってほしい。

・グループワークで自分では考えられなかった事が出て、その内容を話し合うのが楽しかったです。

・貴重な会議なので、区や都、さらに国を突き動かすようなより尖った提言につながる会の活発な運営を期待しています。



写真7・8 グループワークの様子

4.3 第3回

・様々な年代の方とお話しすることができ、社会的にも良い経験となった。

・とても良い機会を与えて下さり、ありがとうございました。気候変動などの情報をしっかり受け止め、考え、行動する必要性を学びました。

・地球にとって、人々にとって、より優しい社会になりますよう切に願っております。また機会がありましたら参加させていただけると嬉しいです。貴重な体験をさせていただき本当にありがとうございました。

・参加前と参加後では、少しずつですが、省エネに努めるなど、明らかに違った生き方になりました。

・地球温暖化に対する危機感を持って会議に参加される方がこんなにもいらっしゃることに勇気づけられ、自分にできる事を引き続きやっていこうと思いました。今回参加したことで、長年環境問題に取り組んでこられた先生方の講義を受けることができ、大変良い経験となりました。

・今後も技術革新は必要だし、期待したいが、今ある対策でも皆が真剣に取り組めば、ドラスティックに変わる可能性があることを知り、明るい気持ちになると同時に、個々人のモチベーションを上げていくという課題は難しさもあると思いました。その中で、こどものいる家庭は、保育園や学校が地域社会とのつながりを考え始めるきっかけになるし、気

持ち的にも「こどもたちのため」をフックにすると、無理のない参加の糸口となります。会議でも意見を述べましたが、幼稚園、小中学校をうまく使うことが大事だと思います。



写真9・10 グループワークの様子

5. おわりに

—「気候市民会議」は近年、各国で広がりを見せ、国内でも様々な自治体で開催されていますが、実際に世田谷区で実施すると区民からどのような反応があるのか、開催には不安を感じる部分もありました。

しかし、実施してみると、区の現状を理解した上で、生活者の視点からミッションを遂行するための具体的で重要なポイントを捉えた提言をいただくことができ、今後の施策展開に向けて大きな成果となりました。

当日、私はファシリテーターとして、「脱炭素行動変容」を議論するグループに参加しましたが、世田谷区全体の縮図となるように性別、年齢、職業等を考慮して選出されたメンバーが、気候変動対策という共通の課題を通じて、自分の体験等を踏まえ、お互いが意見を出し合うことで、広く区民にも受け入れられやすい効果的な政策提言がなされました。

それと同時に、そのような真摯な参加者の姿勢に触れることで、区民から手渡された提言を区の施策として活用していかなくてはならないという責任も強く感じました。

世田谷区は、「2050年までに温室効果ガスの排出を実質ゼロ」にすることを目標に掲げ、その達成に向け、令和7年度には、2050年に社会の中心的存在となる若者世代をターゲットとし、若者が気候アクションの担い手となるために必要なことや、若い世代の視点による気候変動対策について議論、検討するために「世田谷版気候若者会議」を令和7年11月から令和8年1月にかけて実施する予定です。

このように、世田谷区では、今後も区民の皆様の意見を取り入れながら、気候危機対策を進めてまいります。



写真 1 1 参加者の集合写真

-
- 1 世田谷区公式ホームページ「世田谷版気候市民会議」
<https://www.city.setagaya.lg.jp/02238/20344.html>
 - 2 世田谷区公式ホームページ「第1回世田谷版気候市民会議」
<https://www.city.setagaya.lg.jp/02238/22775.html>
 - 3 世田谷区公式ホームページ「第2回世田谷版気候市民会議」
<https://www.city.setagaya.lg.jp/02238/23279.html>
 - 4 世田谷区公式ホームページ「第3回世田谷版気候市民会議」
<https://www.city.setagaya.lg.jp/02238/23671.html>
 - 5 世田谷区公式ホームページ「世田谷版気候市民会議から提言書が提出されました」
<https://www.city.setagaya.lg.jp/02238/24305.html>
 - 6 持続可能な社会に向けて、ステークホルダーの合意形成を模索するのではなく、持続可能な社会に貢献する技術ニッチ（niches）を特定し、それらを現場で小規模に試行することで、技術ニッチと従来の社会経済構造を対峙させることで矛盾を明らかにし、ステークホルダーを支配する社会経済構造に再帰性（reflexivity）をもたらし、最終的に、技術ニッチが「あたりまえ」になる持続可能な社会へと導く、という考え方のこと。
 - 7 世田谷区公式ホームページ「第3回世田谷版気候市民会議」における「開催報告書」P4～11
<https://www.city.setagaya.lg.jp/documents/23671/houkokusyo.pdf>